

株主・投資家の皆様へ (第80期報告書)

2018年4月1日～2019年3月31日



株式会社 **エスライン**

証券コード:9078



株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社は2019年3月31日をもって、第80期事業年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）を終了いたしましたので、ここに報告書をお届けし、事業の概況等につきまして、次のとおりご報告申し上げます。

2019年6月



代表取締役社長
山口嘉彦

営業の概況

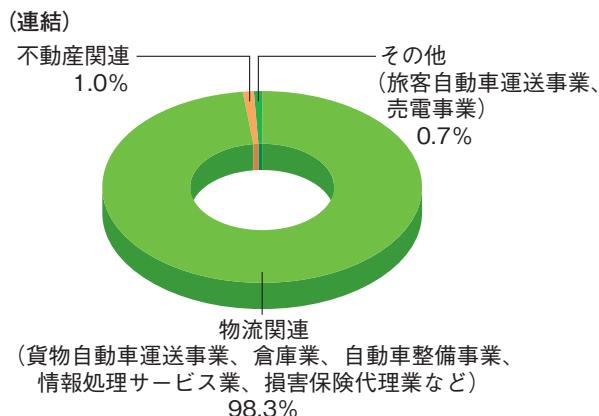
当社グループの主要な事業であります物流関連業界におきましては、深刻化するドライバーを中心とした労働力不足や輸送供給力の低下を補完するための備車費・外部委託費の増加に加え、原油価格の上昇による燃料費の増加等、引き続き経営環境は厳しい状況となっております。

このような状況のもと、当社グループでは、本年度を最終年度とする中期経営計画（スローガン：「エスラインブランドの確立に向けて」）の経営目標の達成と企業価値の向上に向けて、グループ一丸となって取り組んでまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、営業収益

491億36百万円（前期比4.9%増）で、3期連続で過去最高額を更新しました。利益面では、人材確保のための人件費や取扱貨物量の増加による備車費・外部委託費の増加、燃料費、減価償却費の増加がありましたが、営業利益16億87百万円（前期比16.0%増）、経常利益17億56百万円（前期比15.1%増）となり、いずれも過去最高額となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は投資有価証券評価損を2億39百万円計上したことにより9億69百万円（前期比1.7%減）となりました。

売上構成比



対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、雇用・所得環境の改善により、緩やかな回復が続くことが期待されておりますが、中国経済の減速を始め各国の成長鈍化等を背景とした、先行き不透明な状況も続くことが想定されます。物流関連業界におきましては、消費活動に力強さが見られず、取扱貨物量の拡大は期待できないものと予想されます。また、絶対的な労働力不足のなか、働き方改革関連法の

施行による、労働環境の改善への取り組み、不安定な原油価格の動向、さらには、安全装置や環境対応に向けた車両導入等のコスト増加要因も見込まれ、当社を取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況が続くことが予想されます。

こうしたなか、当社グループでは、「輸送ネットワークと拠点物流サービスを人材・品質・技術で強化拡充する」を基本方針とする、新中期経営

計画「スローガン：エスラインブランドの価値向上」（2020年3月期から2022年3月期）を策定いたしました。

- ①事業構造の改革（1.輸送サービスの充実、2.物流サービスの拡大、3.ホームサービスの成長）
- ②働き方改革・人事制度の確立
- ③ESGへの取り組み

を経営戦略の柱に、組織体制の改革、人材確保と育成、営業サービスの強化、業務の効率化と生産性向上、先進技術の導入等を着実に実行することにより、利益率の改善を目指した新中期経営計画の目標達成と企業価値のさらなる向上に取り組んでまいります。その中でも特に、昨年稼動を開始した(株)エスラインギフ豊田第2物流センターや西

淀川支店、(株)スワロー急送の本社物流センターの稼動状況を確認し、さらなる収益性の向上を図ってまいります。

また、本年5月に(株)エスライン郡上にて移動ラック式定温管理倉庫を、本年11月には(株)エスラインギフの本社敷地内に省力化を目指した中部地区では最大規模となる自動ラックシステムを導入した飲料保管用倉庫を新築し、早期の安定稼動実現と物流サービスの事業拡大に取り組んでまいります。

財務ハイライト

営業収益

491億36百万円

前期比4.9%

(単位：百万円)



過去最高

経常利益

17億56百万円

前期比15.1%

(単位：百万円)



過去最高

親会社株主に帰属する当期純利益

9億69百万円

前期比△1.7%

(単位：百万円)



物流関連事業

貨物自動車運送事業、倉庫業、自動車整備事業、
情報処理サービス業、損害保険代理業など

物流関連事業の主な事業収益は、貨物自動車運送事業、倉庫業、自動車整備事業、情報処理サービス業、損害保険代理業等があります。

トラックによる企業間輸送を主とする輸送サービス部門では、適正な水準への運賃改定と諸料金の収受に向けた営業活動を積極的に進めました。その結果、15億50百万円の収入増に寄与いたしました。また、総合ディスカウントストアへの店舗配送業務のエリア拡大や一般雑貨商品の取扱貨物量が増加し増収となりました。また、昨年10月には特別積合せ部門の中核会社である(株)エスラインギフの西淀川支店（大阪市西淀川区）を、従来のホーム面積の約2倍に増床し新たな支店として同地区内に新築移転し、関西地区における特別積合せ部門の拠点強化と配送網の充実と営業力強化に努めてまいりました。この結果、輸送サービス部門では19億20百万円の増収となりました。



西淀川支店ホーム

商品保管や物流加工を行う物流サービス部門では、大手流通グループ専門店での販売不振が

483億22百万円

前期比5.0%

■ 営業収益 ▲ セグメント利益 (単位: 百万円)



続き、物流加工業務の取扱量が減少しましたが、飲料や自家用車の夏冬タイヤの保管・配送業務の増加、昨年10月に開設した(株)エスラインギフ豊田第2物流センターでの、自動車関連部品の保管・配送業務が稼働したこと、さらには、昨年11月に(株)スワロー急送では、2か所あった物流センターを岐阜市柳津町の1か所に統合、新築移転し、床面積も約2倍に拡大したことから、保管・物流加工・EC通販物流等、様々なご要望にお応えできる物流センターとして、事業拡大に向けた営業活動を強化したことにより、物流サービス部門では



豊田第2物流センター倉庫内部



スワロー急送接岸バス

1億40百万円の増収となりました。

大型貨物の個人宅配を行うホームサービス部門では、昨年夏の猛暑によるエアコン販売数量の大幅増加、冷蔵庫・洗濯機を中心とした白物家電の販売数量の増加、前期に導入したユニック車（クレーン付車両）を活用した大型商品の配送・設置業務の拡大、および、配送料金の改定が大きく寄与した結果、3億25百万円の増収となりました。

また、引越しサービスの拡大にも積極的に取り組みました。「スワロー引越便」のPR活動を始め、社内に開設した「引越研修センター」での担当者の定期的な実技訓練の実施、引越し作業や大型商品

配送時の作業手順・留意点を紹介する動画サイト（SL-PORTAL）を開設し、パソコンやモバイル端末に配信し、現場での基本動作の確認に活用

する等、さらなる作業品質の向上にも努めてまいりました。この結果、ホームサービス部門全体では3億54百万円の増収となりました。

しかしながら、物流関連事業全体における当第4四半期連結会計期間は、運賃改定効果（運賃收受率）の鈍化に加え、アパレル関連の物流加工業務の減少が顕著となり、営業収益の伸長は第3四半期連結会計期間に比べ半分以下となりました。

また、費用面では、待遇改善による人件費および原油価格の上昇による燃料費等の増加に加え、備車会社・外部委託会社・中継会社からの値上げ要請や、協力会社への支払い運賃・諸料金が増加いたしました。

このような経費増加の要因はありましたものの、当社グループではESGへの取り組みの一環として、環境への負荷軽減と、ドライバーへの身体的な負担が少なく、労働環境のさらなる改善を図ることを目的に、本年2月に電気小型トラック「e Canter（イー・キャンター）、車両総重量7.5トン（準中型免許対応）」を（株）エスラインギフに4台、（株）エスライン各務原に1台、合計5台導入し、中部地区、特に岐阜・名古屋地区での企業間輸送のための集配業務やルート配送用の車両として稼動を開始いたしました。

この結果、物流関連事業の営業収益は483億22百万円（前期比5.0%増）となりました。



市内集配中の電気小型トラック



SL-PORTALイメージ

不動産関連事業

不動産賃貸業

不動産関連事業におきましては、当社グループ各社にて保有している不動産の有効活用を図るために、外部への賃貸事業を営んでまいりました。

この結果、不動産関連事業の営業収益は4億66百万円（前期比1.6%増）となりました。

4億66百万円

前期比1.6%

営業収益 セグメント利益（単位：百万円）



その他事業

旅客自動車運送事業、売電事業

その他事業として、旅客自動車運送事業および売電事業を営んでおります。旅客自動車運送事業におきましては、これまで取り組んでまいりました競輪場のファンバスの運行業務が終了したことにより減収となりました。

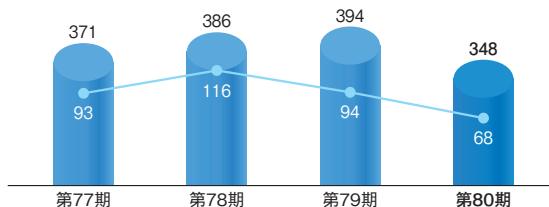
また、売電事業におきましては、(株)エスラインギフの名古屋第1・第2センター、豊橋支店、豊田支店、豊田センターおよび(株)スリーエス物流の本社第1センターの計6か所で発電を行っております（総発電量1,333.96kW）が、前期に比べて減収となりました。

この結果、その他事業の営業収益は3億48百万円（前期比11.8%減）となりました。

3億48百万円

前期比△11.8%

営業収益 セグメント利益（単位：百万円）



連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第80期 2019年3月31日現在	第79期 2018年3月31日現在
資産の部		
流動資産	11,464	11,021
固定資産	25,214	22,847
有形固定資産	22,685	20,374
無形固定資産	97	96
投資その他の資産	2,430	2,375
資産合計	36,678	33,868
負債の部		
流動負債	8,409	7,945
固定負債	7,160	5,817
負債合計	15,570	13,763
純資産の部		
株主資本	20,853	20,072
その他の包括利益累計額	254	32
純資産合計	21,108	20,105
負債純資産合計	36,678	33,868

ポイント

■資産

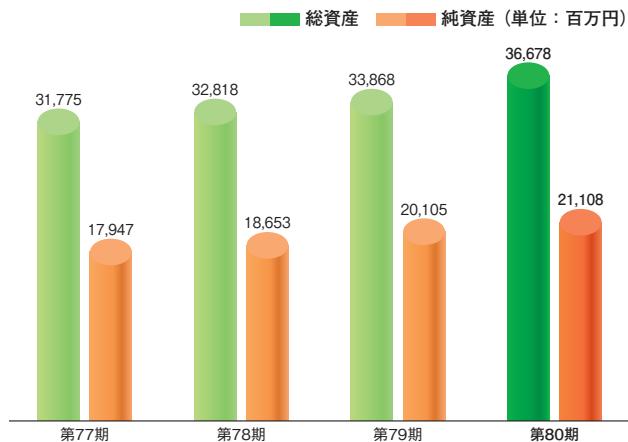
連結資産合計は366億78百万円（前連結会計年度末338億68百万円）となり、前連結会計年度末比28億9百万円増加しております。この主な要因は、有形固定資産の増加であります。

■負債

連結負債合計は155億70百万円（前連結会計年度末137億63百万円）となり、前連結会計年度末比18億6百万円増加しております。この主な要因は、有利子負債の増加であります。

■純資産

連結純資産合計は211億8百万円（前連結会計年度末201億5百万円）となり、前連結会計年度末比10億2百万円増加しております。この主な要因は、利益剰余金の増加によるものであります。



連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第80期	第79期
	2018年4月1日から 2019年3月31日まで	2017年4月1日から 2018年3月31日まで
営業収益	49,136	46,858
営業原価	45,696	43,751
営業総利益	3,439	3,107
販売費及び一般管理費	1,752	1,652
営業利益	1,687	1,455
営業外収益	101	105
営業外費用	33	35
経常利益	1,756	1,525
特別利益	40	51
特別損失	301	40
税金等調整前当期純利益	1,496	1,536
法人税等	526	550
当期純利益	969	986
親会社株主に帰属する当期純利益	969	986

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	第80期	第79期
	2018年4月1日から 2019年3月31日まで	2017年4月1日から 2018年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	2,600	2,773
投資活動による キャッシュ・フロー	△3,566	△1,377
財務活動による キャッシュ・フロー	1,388	△350
現金及び現金同等物に 係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物 の増減額	422	1,046
現金及び現金同等物 の期首残高	4,009	2,963
現金及び現金同等物 の期末残高	4,432	4,009

ポイント

■営業活動によるキャッシュ・フロー

26億円の収入（前期は27億73百万円の収入）となりました。この主な収入は、税金等調整前当期純利益と減価償却費の計上であります。

■投資活動によるキャッシュ・フロー

35億66百万円の支出（前期は13億77百万円の支出）となりました。この主な支出は、固定資産の取得であります。

■財務活動によるキャッシュ・フロー

13億88百万円の収入（前期は3億50百万円の支出）となりました。この主な収入は借入金の実行によるものであります。



この一年の主な出来事

地域貢献・広報活動

FC岐阜のオフィシャルスポンサーになりました。

㈱エスラインギフは、昨年10周年を迎え、岐阜県をホームタウンとするJリーグ(J2)「FC岐阜」のオフィシャルスポンサーになりました。

エスラインの発祥の地である岐阜県のクラブチームを応援することによって、地域の活性化、そして子供達の未来のために、少しでも貢献できれば願っております。



(株)エスラインギフ

社員紹介

エスライングループ新入社員 ハンドボール選手として活躍中。

㈱エスラインヒダに新入社員として入社した柴田佑真さんは、日本ハンドボールリーグの女子チーム「飛騨高山ブラックブルズ岐阜」に所属しております。毎日、仕事を終えると、チームの本拠地である「飛騨高山ビッグアリーナ」にて、日本ハンドボールリーグ戦に向け、練習を行っております。これからも、柴田選手、そして「飛騨高山ブラックブルズ岐阜」にご注目ください。



(株)エスラインヒダ

2018



5/10
決算発表



6/27
定時株主総会



8/9
第1四半期
決算発表



IR活動

決算説明会を開催しました。

2018年5月(参加者27名)および11月(参加者17名)に、東京で決算説明会を開催しました。

東証・名証1部に上場してから初の決算説明会ということもあり、多数のご質問と、応援のお言葉をいただきました。



(株)エスライン

IR活動

名証IRエキスポに参加しました。

毎年参加している名古屋証券取引所主催のIRイベント「名証IRエキスポ」において、一昨年に続き「プレミアム説明会」を実施し、山口社長から大勢の個人投資家の皆様に、今後のビジョン等について説明をいたしました。



(株)エスライン

品質向上活動

フォークリフト運転競技 岐阜県大会で優勝しました。

2018年8月に行われた「第26回フォークリフト運転競技岐阜県大会」において、㈱エスラインギフの社員、川上賢志さんが優勝しました。日頃から職場において安全意識を持ち、労働災害の防止に努めており、他の社員の模範となっております。



(株)エスラインギフ

IR活動

初の個人投資家向け会社説明会 を開催しました。

2018年9月に初の個人投資家向け会社説明会を名古屋で開催しました。(参加者158名)

IRエキスポ以外で、個人投資家の皆様からご意見・ご要望を直接お伺いできる貴重な場として、今後も継続開催していきたいと考えております。



(株)エスライン

施設の新設

物流センターを新築します。

㈱エスライン郡上において、岐阜県郡上市に、医薬品・医薬部外品等の生産を行う企業様の、物流業務全般を請け負うための物流センターの建設を開始しました。新物流センターは、最大2,048パレットが収容できる「移動式ラック」を導入、また全館空調設備によって製品を定温管理できる機能を備えております。

(平屋建・
延床面積1,879.58㎡、
2019年5月完成)



(株)エスライン郡上

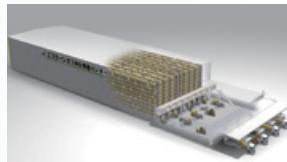
施設の新設

中部地区最大級の飲料保管自動倉庫を新築します。

㈱エスラインギフにおいて、岐阜県岐南町の本社敷地内に、飲料製品の入出庫・保管・輸送といった物流業務をあらたに請け負うための、新物流倉庫の建設を開始しました。

新物流倉庫には、10,624パレット収容できる「自動ラックシステム」を導入し、少ない人員でも物量増に対応できるほか、機械化による一層の作業の効率化を図ることができ、これまで以上にお客様からの多様なニーズにお応えできる新物流倉庫を目指します。

(平屋建・延床面積17,991.99㎡、2019年10月完成予定)



(株)エスラインギフ

10

11

12

2019
1

2

3

11/8
第2四半期
決算発表

2/8
第3四半期
決算発表

施設の新設

三河地区の総合物流拠点をさらに充実させました。

2017年にオープンした㈱エスラインギフ「豊田支店」、「豊田センター」とあわせ、主に自動車関連部品の保管・配送等を行う施設として、豊田第2物流センターが新築オープンしました。このオープンにより、三河地区の総合物流拠点として、さらなる業務拡大を図っていきます。(A棟:2階建・延床面積4,081.38㎡、B棟:2階建・延床面積1,398.41㎡)



(株)エスラインギフ

施設の替替

西淀川支店がリニューアルオープンしました。

㈱エスラインギフの特別積合せ部門の配送拠点である西淀川支店について、施設の老朽化・狭隘化のため、旧支店の近隣に、リニューアルオープンしました。新施設はホーム面積が従来の約2倍となり、この広さと効率性が良くなった施設を活かし、配送網の充実と営業力拡大を図っていきます。(2階建・延床面積2,660.78㎡)



(株)エスラインギフ

施設の新設

新本社・物流センターがオープンしました。

㈱スワロー急送において、2か所あった物流センターを1か所に統合・新築移転し、倉庫面積も約2倍となった新本社・物流センターがオープンしました。今後、保管・物流加工・EC通販物流等、様々なご要望に対応できる施設として、業務の拡大を図っていきます。(2階建・延床面積8,973.73㎡)



(株)スワロー急送

ESG・環境対策

電気小型トラックを導入しました。

環境にやさしく、無音・無振動であり、ドライバーへの身体的負担も少ない電気小型トラック「e Canter」を、㈱エスラインギフに4台、㈱エスライン各務原に1台、計5台導入しました。中部地区で初、全国でも3社目となるこの最先端車両の導入をきっかけに、女性ドライバーの採用や、ESG活動の推進につなげていきたいと考えております。



(株)エスラインギフ・(株)エスライン各務原

新時代、一步先行くエスライン

タイヤ保管・
配送サービス用
倉庫の自動ラック施設
(株)エスラインヒダ



靴専門
チェーン店様向け
物流センターの
自動仕分施設
(株)スリーエス物流

医薬品・
医薬部外品
専用物流センターの
移動式ラック施設
(株)エスライン郡上
今年5月オープン



飲料保管
自動倉庫の
自動ラック施設
(株)エスラインギフ
今年秋オープン予定



中部地区初となる
電気小型トラック
「e Center」
(株)エスラインギフ・
(株)エスライン各務原

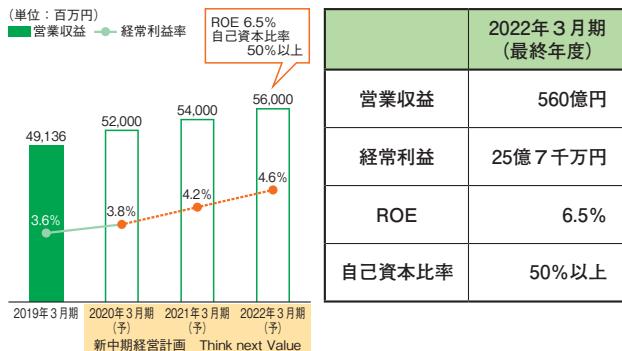
ドライバーへの
身体的負担が
少なく、労働環境の
さらなる改善を
図るため導入

『エスラインブランド』の価値向上
その先の未来へ
Think next Value

エスライングループは、効率化と生産性の向上を目指し、先進技術を積極的に導入します。

中期経営計画「『エスラインブランド』の価値向上 “Think next Value”」

経営目標



	2022年3月期 (最終年度)
営業収益	560億円
経常利益	25億7千万円
ROE	6.5%
自己資本比率	50%以上

基本方針

『エスラインブランド』の価値向上
 輸送ネットワークと拠点物流サービスを**人材・品質・技術**で強化充実する



組織体制の改革・人材確保と育成・営業サービスの強化
 業務の効率化と生産性向上・先進技術の導入

基本戦略

■事業構造の改革

- グループネットワークを活かした事業を、戦略的連携により展開します。
- 収益構造を変革し、営業利益の向上を図ります。



『エスラインブランド』の価値向上

事業構造の構築

- ・ 事業特性を更に発展させる新たなグループ連携体制の構築
- ・ 共通機能の組織の強化
(事業企画、マーケティング、業務オペレーションなど)
→ 社会環境や経済情勢への変化に迅速、且つ、柔軟に対応

事業戦略室の立ち上げ

- ・ 新事業の調査と企画
- ・ 事業連携の強化支援
- ・ 先進技術の導入による安全と品質の向上と業務の効率化
- ・ 人材の確保と育成
- ・ 働き方改革の推進と人材活用
- ・ 社員の意識改革の促進
- ・ 社内風土の醸成を図るための企業環境の整備
- ・ 稼働後の事業評価

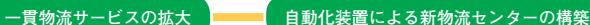
■輸送サービスの充実

- 輸送ネットワークを充実させ、強みエリアでの複合輸送サービスを拡充させます。
- 輸送手段の変革やシステム化による『効率化』『省力化』を推進します。



■物流サービスの拡大

- 輸送ネットワークと多様な輸送手段を持つ強みを活かして、成長地域・領域での物流サービスを競争優位な事業に成長させます。



■ホームサービスの成長

- 一層の作業品質の向上と輸送ネットワークとの連携を図り、「大型商品の宅配(B to C)」と「引越サービス」を収益性の高い事業に成長させます。



■働き方改革・人事制度の確立

- 物流環境に適した人事制度を確立します。
- 安全・安心と、働く喜びを感じる、職場環境を構築します。



■ESGへの取り組み

- 安全で環境にやさしい企業として、高品質な物流サービスで地域社会に貢献します。
- エスラインで働く喜びを家族で感じられる企業として成長します。



会社概要 (2019年3月31日現在)

社名	株式会社エスライン
英文社名	S LINE CO.,LTD.
設立	1947年3月10日
資本金	22億3,773万1,515円
上場取引所	東京・名古屋証券取引所 市場第一部
本社所在地	岐阜県羽島郡岐南町平成四丁目68番地 電話 (058) 245-3131 (代表)
従業員数	2,081名 (連結)

役員 (2019年6月27日現在)

代表取締役社長	山口嘉彦
取締役副社長	村瀬博三
取締役	桑原等
取締役	白木武
取締役	加藤孝一
取締役	青木浩一
取締役	堀江繁幸
取締役	笠井大介
取締役 (常勤監査等委員)	村瀬明治
社外取締役 (監査等委員)	中村源次郎
社外取締役 (監査等委員)	岡本実

グループ会社一覧



持株会社

エスライン

エスライングループ

- エスラインギブ (岐阜県羽島郡岐南町)
- エスライン九州 (鹿児島県鹿児島市)
- エスラインヒタ (岐阜県高山市)
- エスライン羽島 (岐阜県羽島市)
- エスライン郡上 (岐阜県郡上市)
- エスラインミノ (岐阜県羽島郡岐南町)
- エスライン各務原 (岐阜県各務原市)
- エスライン奈良 (奈良県天理市)

宅配110番グループ

宅配百十番岐阜 (岐阜県羽島郡岐南町)

スワログループ

- スリーエス物流 (愛知県一宮市)
- スワロー急送 (岐阜県岐阜市)
- スワロー物流 (岐阜県羽島郡笠松町)
- スワロー物流東京 (埼玉県川口市)
- スワロー物流浜松 (静岡県浜松市)
- スワロー物流大阪 (大阪府東大阪市)
- スワロー物流福岡 (福岡県糟屋郡粕屋町)
- スワロー物流上尾 (埼玉県上尾市)
- スワローセキュリティーサービス (岐阜県羽島郡岐南町)
- スワローロジックス (愛知県清須市)
- エストピア (岐阜県羽島郡岐南町)



株式の状況 (2019年3月31日現在)

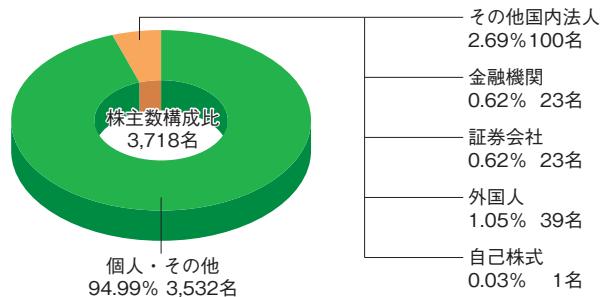
株式の状況

発行可能株式総数	40,847,000株
発行済株式の総数	11,095,203株
株主数	3,718名

大株主の状況 (上位10名)

株主名	持株数 千株	持株比率 %
有限会社美美興産	1,323	11.92
株式会社大垣共立銀行	500	4.51
みずほ信託銀行株式会社	500	4.50
株式会社十六銀行	493	4.45
株式会社三菱UFJ銀行	385	3.47
王子運送株式会社	364	3.28
エスライン従業員持株会	364	3.28
明治安田生命保険相互会社	363	3.27
株式会社市川工務店	320	2.88
村瀬博三	306	2.76

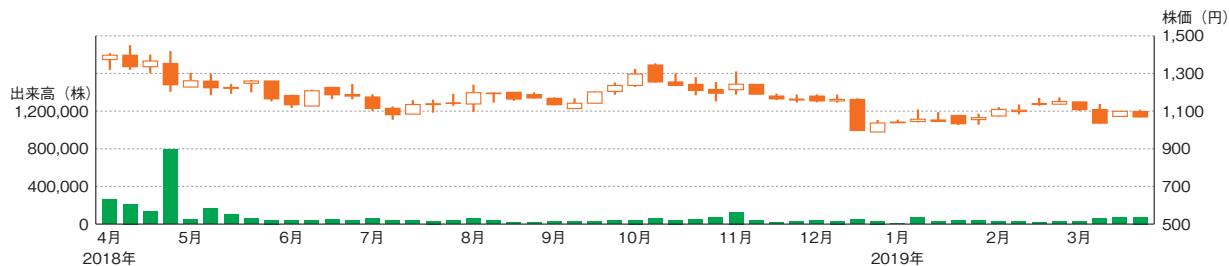
株式分布状況



1株当たり配当金 (単位: 円) ● 配当性向 (連結)



株価の推移



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
剰余金の配当基準日	期末配当 毎年3月31日、中間配当 毎年9月30日 (2019年5月10日の取締役会決議により、2020年3月期から、中間配当を実施することいたしました。)
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告 公告掲載URL http://sline.co.jp/ ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵送物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受取り方法の変更等)	お取引の証券会社等になります。	みずほ信託銀行 本店および全国各支店 *トラストラウンジではお取扱できませんので、ご了承ください。 みずほ証券 本店、全国各支店 プラネットブース (みずほ銀行内の店舗) でもお取扱いたします。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行(※)およびみずほ銀行の本店および全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります) (※)トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵送物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

株主優待制度について

(長期保有株主様への贈呈内容が変更となりました)

- 対象となる株主様
毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された100株以上を保有する株主様を対象といたします。
- 贈呈品
①当社株式保有年数が3年未満の場合 クオカード(1,000円分)1枚
②当社株式保有年数が3年以上の場合 クオカード(2,000円分)1枚
※「当社株式保有年数が3年以上の場合」とは、株主様が同一の株主番号で2016年3月31日の株主名簿から2019年3月31日までの中間期・期末株主名簿に記載または記録されていることをいいます。
- 贈呈時期
毎年、定時株主総会終了後の6月下旬に、「定時株主総会決議ご通知」とともにお送りいたします。



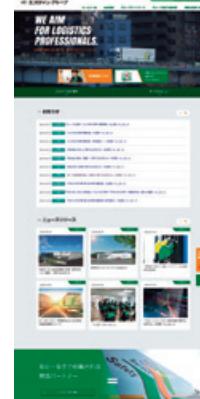
QUOカードイメージ

ウェブサイトをリニューアルいたしました。

このたび、エスライングループのウェブサイトについて、コンテンツ・画像・デザイン等を一新し、リニューアルを行いました。

リニューアル後のウェブサイトには、業務内容や各サービス、求人関係の紹介画像等をふんだんに盛り込み、「見れば分かる！」ウェブサイトへと進化させました。

これからも、見やすく、分かりやすく、使って頂きやすいウェブサイトにするために、随時改良を加えてまいります。株主の皆様も、是非一度ご覧ください。



当社ウェブサイトTOPページ

株式会社 エスライン

〒501-6013 岐阜県羽島郡岐南町平成四丁目68番地
TEL : 058-245-3131 FAX : 058-240-4850
<http://sline.co.jp/>
当社ウェブサイトも、ぜひご覧ください。

エスライン

検索

